

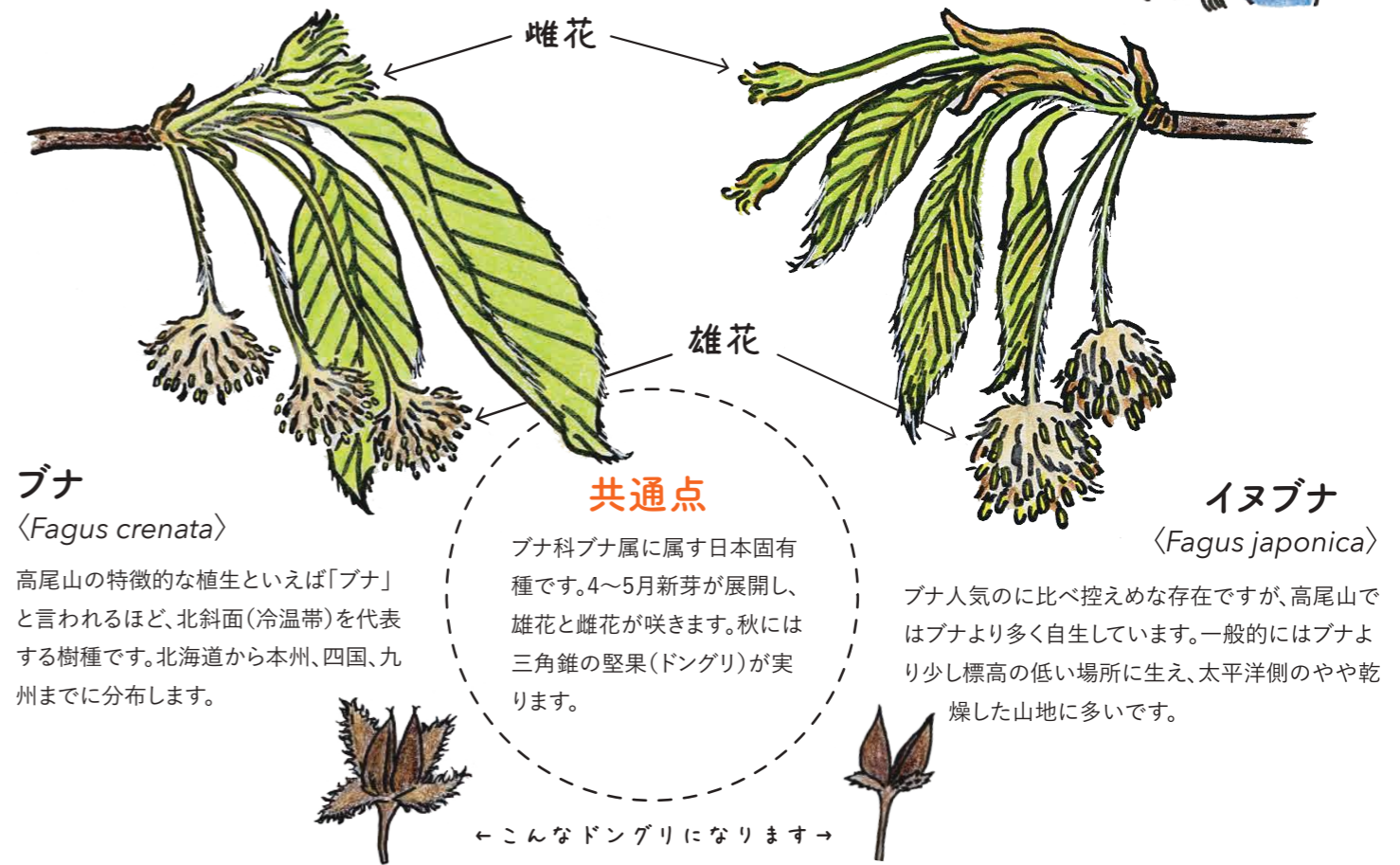
高尾山山頂から発信！

# のぶすま



「のぶすま」とはムササビの古い呼び名です。  
vol.55 季刊  
2019年春号

## 2018年春のビッグニュース 7年ぶりにイヌブナ満開！！



2018年4月、高尾山ではイヌブナの花がたくさん咲き、高尾山勤務7年目の解説員は、めったに見ることができない光景に心奪われました。これを機に、高尾山のイヌブナとその仲間であるブナの1年を追ってみました。

### 今回の観察場所

ケーブルカー高尾山駅前には枝先が目の前にあり絶好のポイントです。2018年の冬、景観を確保するため一部伐採されましたが、現在でも観察ができます。

ブナとイヌブナが並ぶケーブルカー高尾山駅→



## Twitterでふりかえる 高尾山ニュース！

2018年の4月よりTwitter・Facebookをはじめ、ちょうど1年が経ちました。おかげさまで、2019年3月22日時点でフォロワー数1,644！引き続き、山頂の気温や天気、旬な自然情報などを毎日発信してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

では、1月~3月のツイートから、注目のニュースをご紹介します。

### ヤマアカガエルの目覚め (2/19)



このツイートのちょうど10日前の2月9日の夜に雪が降ったのですが、その後急に気温が上がり春らしくなったな~と思ったところで、すかさず登場！清滝の池は、日々賑やかになってきています。

### 解説員 くらむ vol.17

**思い出のカエル**  
みなさんはカエルを頭の中で想像するとき、どんなカエルが思い浮かびますか？いろいろなカエルがいますが、僕はヒキガエルが最初に思い浮かびます。それは、このカエルが最も長い付き合いだからです。

僕が育ったのは東京の町中で、カエルが好むような水辺環境が乏しいところでした。そんな都市部でも、このカエルはしたたかに暮らしていて、道をのそのそと歩いていたり、春には学校の小さな池に、どこからともなく複数が集まってきたりしていました。他の種類のカエルは、近所では出会うことができませんが、ヒキガエルだけは身近な場所に出会うことができ、幼少期に遊んだ思い出のある存在でした。

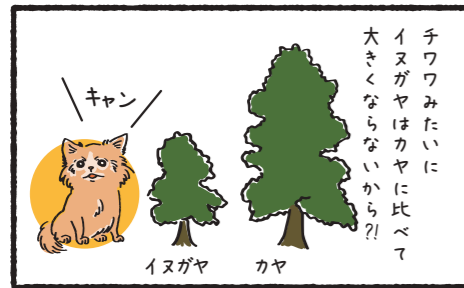
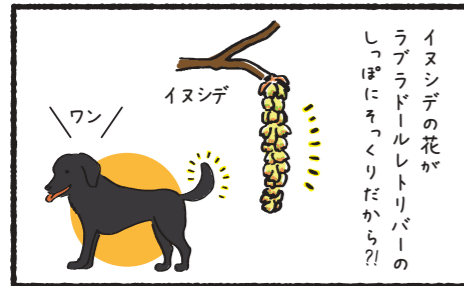
ヒキガエルは、高尾山にも生息していて、雨の日に道の真ん中で「ドン！」とたたずんでいることがあります。そんな時は、古くからの友達に会ったような気持ちになり、心の中で「よっ」と声をかけています。

子供のころに育った場所の環境によって、みなさんの思い出のカエルはそれぞれ違っているのではないのでしょうか。高尾山の玄関口であるケーブルカーの清滝駅広場にある池では、冬の暖かい日にヤマアカガエルが産卵をしにきます。春から初夏にかけてヒキガエル、シュレーゲルアオガエルやモリアオガエル、ツチガエル、続々といろいろなカエルが池に産卵に来てにぎやかになります。高尾山に来た際には、ぜひ池の中を覗いて、思い出のカエルとの再会を楽しんでみてはいかがでしょうか。

〈解説員 くらむ〉

## たかおさん

「イヌがつく植物」の巻



作：むらかみ/絵：うめだ

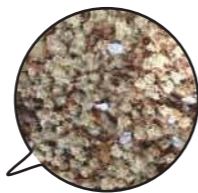
「のぶすま」最新号とバックナンバーを高尾山山頂にある、高尾ビジターセンターにて準備しております。ご希望の方はビジターセンター窓口までお越し下さい。



# 2018年高尾山のブナ・イヌブナ

## 5月

イヌブナの雄花がベンチや道に降り積もりました。落下した花の量にびっくり。



実際の写真

### 高尾山のイヌブナ

ブナ属の開花状況は年により異なります。高尾山のイヌブナは、1995年、2000年、2005年、2011年に開花が確認されました。

## 8月

結実した若いドングリを確認。その後、うだるような酷暑が続き、無事に育つか心配でした。

イヌブナ→  
殻斗は短く、  
半分堅果が見えている



ブナ→  
棘のある殻斗に包まれ、  
堅果は見えない



## 10月

瞬間風速45mを記録した台風24号が通過。せっかく実ったのに全て落ちてしまわないか心配でした。



イヌブナ



ブナ



### ブナの仲間の生き残り戦略

ドングリは、年により豊作と凶作があります。凶作年をつくり未熟な堅果を食べる昆虫の数を減らし、豊作年の食害を抑える植物の戦略と言われています。また、豊作凶作は、熟したドングリを食べる哺乳類の数にも影響します。森の生きものはお互いに影響し、微妙なバランスで数を保ちつつ暮らしています。

## 11月

心配をよそに、イヌブナは大豊作となりました。しかし、ブナは中身がないドングリばかり…



大豊作

やったね!

## 2019年 3月26日

7年ぶりにイヌブナのかわいい双葉が見られ、感激しました。一方、今の高尾山の気候に合わないブナは、このまま消えてしまうかもしれません。ブナとイヌブナの観察から、長い時間をかけて移り変わる森の変化を感じ取れました。今後、高尾山はどう変わっていくのでしょうか。引き続き、高尾山の変化を観察し見守ってまいります。〈解説員 さとう(た)〉



※WIとは、植生と気温の相関関係を表す「暖かさの指数」  
八王子市のWIは、気象庁データの月平均温度より算出

参考資料:ブナ北限の里黒松内町ブナセンター【ブナの基礎知識】  
日本の樹木の分布帯と暖かさの指数との関係(吉良, 1949年)



# ブッポウソウの軌跡をたどり 見えてきたもの

かつて高尾山のシンボリックな存在であったブッポウソウ。その軌跡をたどると、彼らが姿を消した1つの背景が見えてきました。

皆さんは「ブッポウソウ復活プロジェクト」というのをご存知ですか？かつて高尾山に生息していたブッポウソウが暮らせる自然を次世代へ残す事を目的に、高尾地区自然公園管理運営協議会が主体となり、山内各所に巣箱を設置するプロジェクトです。これをきっかけに、私は高尾山のブッポウソウについて調べてみるようになりました。

生息が初確認されたのは昭和13年頃、薬王院で修行中のお坊さんが青く光る野鳥を見つけ、その3年後「日本野鳥の会」創設者の中西悟堂氏に青い鳥の存在を教えたのが始まりです。この話は中西悟堂氏が当時の日本野鳥の会の会報誌『野鳥』(88号)にて書いていました。また、昔のブッポウソウの様子を知るため、古くから薬王院が発行している「高尾山報」を見てみると、定期的にブッポウソウを題材にした記事を見つける事ができました。高尾山ではブッポウソウはシンボリックな存在として人気があったようです。しかし昭和57年を最後にピタリと記事はなくなっていました。これはブッポウソウが姿を消した時期とほぼ同時期でした。

ところで、ブッポウソウが姿を消した原因はいったい何だったのでしょうか。昭和52年の高尾山報の中でそのヒントとなる興味深い記事を見つけました。

それは、その頃山頂にあった高尾自然動物セ

ンター近くの杉の木にムササビの巣箱を設置していたところ、ブッポウソウが飛来する度、ムササビが巣箱を明け渡すという、生きものの共存をテーマにしたものでした。その中で私が注目した場所は、『すぐ北の斜面で、カラスの夫婦が杉の木の枝に巣を作り、こちらも育児の最中。このカラス夫婦がとんだギャングで、ハイカーたちの残飯あさりだけではすまず(中略)隣組のブッポウソウ一家の巣に目を付けて「産んだらイタダキ」とのぞき込みに来る始末』という、カラスがブッポウソウの卵を食べていると思われる内容でした。

確かにこの記事が掲載された頃は山内にゴミが多く散乱し、それに伴いゴミを荒らすカラスが多く観られたそうです。これは私の推測ですが、カラスが増えたことでブッポウソウは姿を消してしまっただけではないでしょうか。もしこれが本当ならば、ブッポウソウが姿を消した原因は人間にあるのだと思います。

この経緯を知ること、ブッポウソウ復活プロジェクトが人に対して環境保全に目を向けてもらう良い機会なのだと改めて思いました。何年、何十年かかるか分かりませんが、ブッポウソウが戻り安心して暮らせる高尾山になることを心から願っています。

〈解説員 かとう〉

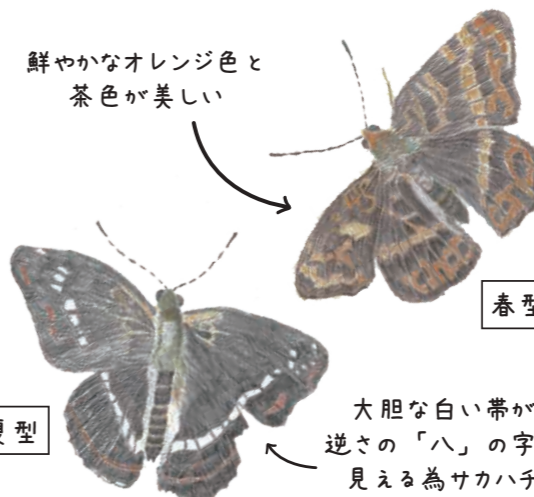
### 高尾山のブナ

ブナはWI45~85°Cが分布帯とされています。2018年八王子市は ※WI132°Cでした。現在の高尾山周辺はブナが根ざすには高温と言えます。ドングリの中身がないのは、その為ではないかと思われま

〈解説員 おぎぎ〉

観察適期…春型5月~夏型7月~8月  
見られる場所…日影沢や木下沢(林道や沢沿いで見られる)

チョウの中には成虫の発生時期によって模様が異なる種がありますが、サカハチチョウはその変化が特に顕著に表れます。その変化、同じ種類とは思えない程です。



鮮やかなオレンジ色と茶色が美しい

春型

夏型

大胆な白い帯が逆さの「ハ」の字に見える為サカハチ

サカハチチョウ  
チョウにも衣装を  
変える時期がある



vol.13

解説員の